

被災地派遣
職員レポート

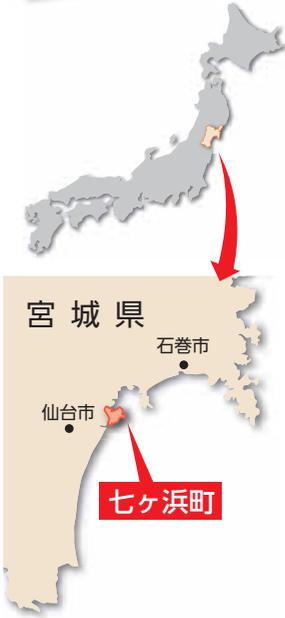
宮城県宮城郡七ヶ浜町へ市職員を派遣しています

☎ 人事課 ☎88・2510



七ヶ浜町震災復興推進課へ派遣
矢野 公嗣

平成24年度から、宮城県の東松島市と七ヶ浜町へ、1人ずつ市職員を長期派遣しています。今回は、今年4月から1年間の予定で七ヶ浜町へ派遣中の市職員(土木技師)が、被災地の今と携わっている業務内容を報告します。



〈多間山からの眺め〉

七ヶ浜町について

人口は約2万人、日本三景「松島」の景勝を誇る四大観の一つに数えられる多間山があり、自然や景観に恵まれたまちです。東日本大震災では110人の尊い命が失われ、現在も508戸1,347人(今年8月1日時点)の方が仮設住宅での生活を送られています。

「うみ・ひと・まち 七ヶ浜」の復興へ

■復興を誓って、前へ。がんばろう七ヶ浜 !!

私は土木技師として、今年の4月から震災復興推進課に所属し、高台住宅団地の造成事業に携わっています。課員は22人で(派遣職員15人)、高台住宅団地の造成や、被災した市街地の土地区画整理などの事業を進めています。

造成工事が進むことで、被災者の方からは「復興が目で見えて実感できるようになった」、「高台での新しい生活を想像しながら前向きにすごすことができる」という言葉をいただき、大きなやりがいを感じています。

町民、町職員、多くの関係者とともに、瀬戸市からの派遣職員として、土木技師として、「うみ・ひと・まち七ヶ浜」の復興を誓って、前へ進んでいます。

■ここぞというときに、お互いに助け合い、危機を乗り越える

七ヶ浜町は震災以前から、町内会などの地域コミュニティーを重要視したまちづくりを進めています。震災当初の避難所での生活は、お互いに助け合うことで危機を乗り越えました。普段のまちづくりにおいても家族から町内会、区単位までのコミュニティーの形成が重要であると感じています。

■「せともの」というブランド力

東北の地で私は「せともの」というブランド力を再認識しました。自己紹介として何よりわかりやすく伝わり、つなげてくれたのが「せともの」でした。「せとものまち、瀬戸市から来ました、矢野です。」そこから始まった私の被災地派遣を通して得た経験や、東北の自然・ひと・まちの魅力を、今後の瀬戸のまちづくりに活かしていきたいです。



〈被災当時のようす〉



〈造成地の現場説明会〉



〈高台住宅団地造成工事のようす〉